

# 私にできることを未来へ

氏名： 前田 安子

学校名： 名護市立名護中学校

担当教科： 英語

実践教科： 道徳

時間数： 6 時間

対象学年： 第 3 学年 人数： 35 人

## 【実施概要】

### 【1】 単元目標：

ラオスの「過去・現在・未来」を通して、持続可能な社会を創るという視点を育てる

【2】 単元の 評価規準	(ア) 関心・意欲・態度	評価しない	ワークシートなどの生徒の振り返りを通して、心の動きや道徳性の成長、更には、話し合いや発表などで生徒の考えや判断、その理由を通して生徒の良さを積極的に記録しながら、内面の理解に努める。
	(イ) 思考・判断・表現	評価しない	
	(ウ) 技能	評価しない	
	(エ) 知識・理解	評価しない	

### 【3】 単元設定 の理由

#### (1) 生徒観

進路選択の時期に差し掛かり、将来について考える機会が多くなってきた。全員が高校進学を希望し、受験に真剣に向き合い、強い意思を持って学校生活を過ごしている反面、その後の将来の夢や目標に対して、不安や焦りを持っている生徒が少なくない。目標が高校進学に留まり、将来の目標や夢を意識した目標設定がうまくできていないことがうかがえる。このことから、自分自身に関することや他の人との関わりに関することなどの身近な人間関係の広がりや留まり、多面的・多角的に物事を捉えられず、社会的な視野を持ち合わせてはいないことがうかがわれることからこの単元を設定した。

#### (2) 教材観

教師海外研修先であるラオスで感じたことを、国際理解教育に関する書籍を参考に、生徒の課題を見つけ実態に合わせたオリジナル教材を作成し、授業の工夫・展開を図っていく。教師自身がラオスで感じたテーマ「過去・現在・未来」から、国際的な視野に立ち、持続可能な社会を形成する視点を持たせ、自己の生き方在り方について考えてもらえるような気づきを中心とした内容になっている。自分で考える学び、他者からの学びを通して多面的・多角的に物事を捉え、身近なことから世界について考えることができるように、不発弾処理現場、ラオスでのホームステイ、国際貢献に従事する日本人にスポットを当て、テーマに迫っていきたい。

(3) 指導観

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」において、『答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る』ことが明記されている。そのため、授業の形態として「自力解決（主体的）」、「課題解決（対話的で深い学び）」で、生徒自身に反映されるような授業の展開を以下のように図りたい。


①ラオスの写真や現物を使用することで異文化を理解し、そこに住む人々の生活習慣に触れることで、物事に対する考え方が一つではないことに気づかせたい。

②更に、ラオスで地域振興や医療、教育に携わる日本人を通して、将来の目標設定、生き方について再考させたい。

③②より活動を通して【協力】【共生】するために、私たちにできる持続可能な社会について考えることができることを最終目標とし、国際理解教育の軸である内容項目「C（18）世界の平和と人類の発展に貢献する」気持ちが根付く授業の展開を図りたい。

【4】展開計画（全6時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	自分にできることから ～援助について考える～	<アイスブレイキング>国旗と国民マッチング ※アジアの国々や国民を紹介しながら、全体の場でも意見が言えるような雰囲気をつくる。 Part1 ◆フィリピンのピナトゥボ火山大爆発の映像を見せ、自分にできる援助は何なのか考える。（どのような活動を行い、なぜそれが必要なのか、自分の考えをグループで共有する。） ◆援助の形について全体で共有する。 Part2 ◆援助とはどういうことなのか、どういう思いをもって取り組むのかをピナトゥボ火山被災者の援助から考える。 【次回へ向けて】 ラオスで青年海外協力隊が行っている協力活動と支援の仕方について、学級掲示を通して紹介する。	映像 You Tube「ピナトゥボ山大噴火！」  募金活動の内容
2	あなたも青年海外協力隊員 ～国際協力の現場を通して、社会や世界とのかかわりについて考える～	<アイスブレイキング>：日本人サラリーマンの1日を追え！ ※日本人の働き方と他の国々の働き方とを比べ、異文化理解を促す。 Part1 ◆支援する側、される側の活動に対する思い、様々な考え方をシミュレーションする。（6グループに分	支援する側、 される側の気

 <p data-bbox="252 607 635 651">違うカードの内容について話し合う様子</p>		<p data-bbox="671 181 1326 264">け、カードA、カードB・・・と各グループに配布し、カードの内容についてグループで意見交換を行う。)</p> <p data-bbox="671 277 746 309">Part2</p> <ul data-bbox="671 324 1326 600" style="list-style-type: none"> <li>◆支援する側、される側、お互いに大切にしないといけないことは何なのかをA~Fのカードを持つメンバーで考える。</li> <li>◆ラオスの病院の様子が写っている写真と働いている助産師さんのメッセージを聞く。</li> </ul> <p data-bbox="671 566 879 600">【次回へ向けて】</p> <p data-bbox="671 613 1326 696">キーワード【協力】【共生】は何につながっていくのか？の問いを学級掲示する。</p>	<p data-bbox="1353 181 1501 215">持ちカード</p> <p data-bbox="1353 331 1533 461">支援する側、される側の気持ちカード</p> <p data-bbox="1353 472 1533 602">写真と映像 佐々井隊員のインタビュー</p>
<p data-bbox="236 730 300 808">3 本時</p>	<p data-bbox="323 707 643 831">ラオスの戦い ～不発弾処理現場から平和について考える～</p>	<p data-bbox="671 707 895 741">【5】本時の展開</p>	
<p data-bbox="236 853 300 887">4</p>	<p data-bbox="323 853 643 954">ラオスに暮らす(大人編) ～人々の暮らしの中から豊かさについて考える～</p>	<ul data-bbox="671 853 1326 1503" style="list-style-type: none"> <li>◆みんなでお菓子を食べよう！（それぞれのグループにあてがわれた分量のお菓子を食べ、どのような気持ちになったのか全体で共有する。）</li> <li>◆ラオスクイズを通して今日のテーマ【豊かさとは何か？】を意識させる。</li> <li>◆これまで学んだラオスについて、「幸せとは何か」「豊かさとは何か」について考える。</li> <li>◆教師海外研修に参加した先生方が感じたラオスの豊かさについての声を聞く。</li> <li>◆「豊かさとは何か」を考えながら、一人1枚幸せの吹き出しを作成する。</li> <li>◆ふり返り【援助の仕方】【協力と共生】【平和】【豊かさ】※これまでの学習をふり返り、テーマを意識させ、単元終末へと向かう。</li> </ul>	<p data-bbox="1353 864 1433 898">お菓子</p> <p data-bbox="1353 1003 1406 1037">写真</p> <p data-bbox="1353 1193 1513 1323">パワーポイント 写真</p>
<p data-bbox="236 1525 300 1559">5</p>	<p data-bbox="323 1525 643 1626">ラオスに暮らす(子ども編) ～学ぶことの大切さを知る～</p>	<p data-bbox="671 1525 1198 1559">◆ラオスの学校や子どもたちについて話す。</p> <p data-bbox="671 1570 735 1603">Part1</p> <ul data-bbox="671 1615 1326 1984" style="list-style-type: none"> <li>◆ラオス語の字で書かれた薬瓶を使い、ラオス語を使って字が読み取れないことをシミュレーションする。</li> <li>◆「学校に行けない」からスタートしどのような結果になるのか、字が読めないことで起こる負の連鎖を考える。</li> <li>◆ラオスの就学前の子どもたちや、部族の子どもたちについて話す。</li> </ul>	<p data-bbox="1353 1536 1517 1666">学校の様子や生徒の様子写真</p> <p data-bbox="1353 1771 1501 1805">とりのこ用紙</p>

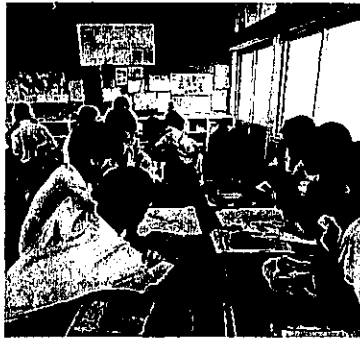
6	私にできることから ～絵本を送ろう～	◆絵本にラオス語訳を貼り付ける（9グループに分け、1グループ1冊～2冊ずつ、計10冊の絵本を準備） ◆ラオス語にふれた感想、訳を貼り付け、絵本を整えた時の気持ちをグループで共有し、全体で発表する。	絵本 ラオス語訳
---	-----------------------	---	-------------

【5】本時の展開

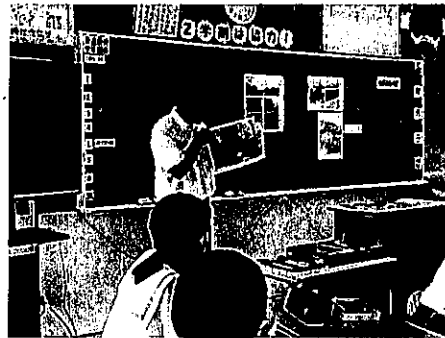
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	前時を振り返り、【協力】【共生】することにより、何がもたらされるのかを考え、今日のテーマを推測する。【平和】	推測したテーマを意識させる。	
展開 Part1 (15分)	<グループ> フォトランゲージ・モノランゲージからテーマに近づく。 ①ラオスの草原写真その1を見て感じたことは？ ②スプーンと関係があるよ。どんなイメージがでてくるかな？ ③ラオス不発弾ポイント写真を見て、赤い印の意味を考えてみよう。 ④ラオスの森林写真をみて、何を感じたかな？ ⑤ラオスの草原写真その2を見て感じたことは？ ⑥銀色のボールは何だろう？ ☆私たちの身近に似たような状況はないかな？	のどかな田園風景と不発弾処理現場の対照的な写真を通して、平和について考えを深めさせる。  沖縄の不発弾処理写真や新聞記事等から、平和を創ることについて考えさせる。	写真、現物（スプーン） ※添付資料①
Part2 (25分)	<全体・個人> ピースメーカーとして平和を創ることについて考える ・あなたがイメージするピースメーカーってどんな人かな？ ・なぜそう考えたのかな？ ・ラオスのピースメーカーはどんな人たちだろう？	沖縄出身の宇良さんの活動を紹介し、自分にできることを意識させ、平和な未来への方向性を探らせる。	※添付資料② JMAS 宇良さんのインタビュー映像 ※添付資料③

<p>まとめ (5分)</p> <p>次回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あなた自身がピースメーカーです。どんな「平和の約束」を創り上げたいかな？</li> <li>・あなたはピースメーカーとしてどう動く？</li> <li>・ラオスは平和かな？</li> <li>・日本は平和かな？</li> <li>・平和ってどういう意味かな？</li> </ul>	<p>考えをまとめさせ、共有する。</p> <p>平和という言葉から「幸せ」や「豊かさ(豊かな心)」を連想させる。</p>	
<p>ラオスの衣食住から豊かさとは何かについて授業を展開する</p>			

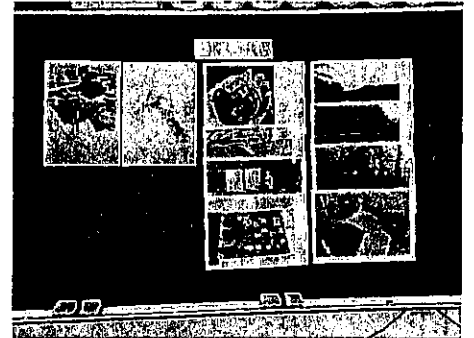
【授業実践の様子】



フォトランゲージの様子



話し合いの内容を発表している様子



沖縄とラオスの不発弾について

【6】本時の振り返り

授業をしていてとても感動したのは、教師の話を一息懸命に聞いてくれたことである。その真剣な表情や授業後の感想からも、「混乱している」や「考えている」、「わからなくなってきた」など、【平和】が簡単に創られることのできない状況であることに衝撃を受けていた。不発弾処理活動の地道な活動を知り、身近なことで何かできることがあるのでは？と授業後も話を続ける様子が見られ、嬉しく思った反面、きちんとした情報を収集し、伝える大切さを私自身が学ぶことができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

ラオスを通して視野を広げることができ、世界が 不平等だと感じた 生徒が多く、身近な事から視点をもち気づき、考える事ができるようになった。生徒たちは、以下のような「私にできること」を行動に移せるようになった。

平和の約束は、身の周りで困っている人を見つけたら、手助けをしてあげる。

この思いを伝える人がいるので、思いを伝えてあげよう。

なんで自分や自分に考えて、周りの人に嫌な思いをさせることしない。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

ラオスのことについて、色々知り本当によかった。

左記のように、一つずつラオスについて学んでいくと、もっともっと知りたいという生徒が増え、授業に対して常に前向きであった。

最終的には

ラオスのことをよく知った。日本とラオスの違いも知った。

ラオス行きたーと思った！  
ここから応援します 同好

という気持ちが芽生え、ラオスから見た日本についても考えを巡らせるなど、積極的に取り組んでくれた。

【途上国・異文化への意識の変容について】

(授業前)

英語教科でのアンケートでも学級の生徒全員が「外国へ行ってみよう」と答えており、外国への関心は高い。しかし、スポーツや海外芸能などの影響もあり、アメリカなどのメジャーな国を訪れたいと答えた生徒ばかりで、アジアましてやラオスへの興味や関心を示す様子は見られなかった。

(授業後)

私自身は「知らない国を知る」国際理解教育入門のようなイメージをしていたが、授業を通して、「理解する」にまで生徒自らステップアップしてくれた。感想では

自分たちは貧しい人達とラオス向きな国で、  
ばいばい、あからなくなら。

など、

葛藤する生徒が多く見られたと同時に、「国際協力をしてみたい」

世界は開かれてラオスも開いて。

その国にあつたしえんのしかた  
を考える事が大切だと思った。

平和と協生の  
大切もつと知る。

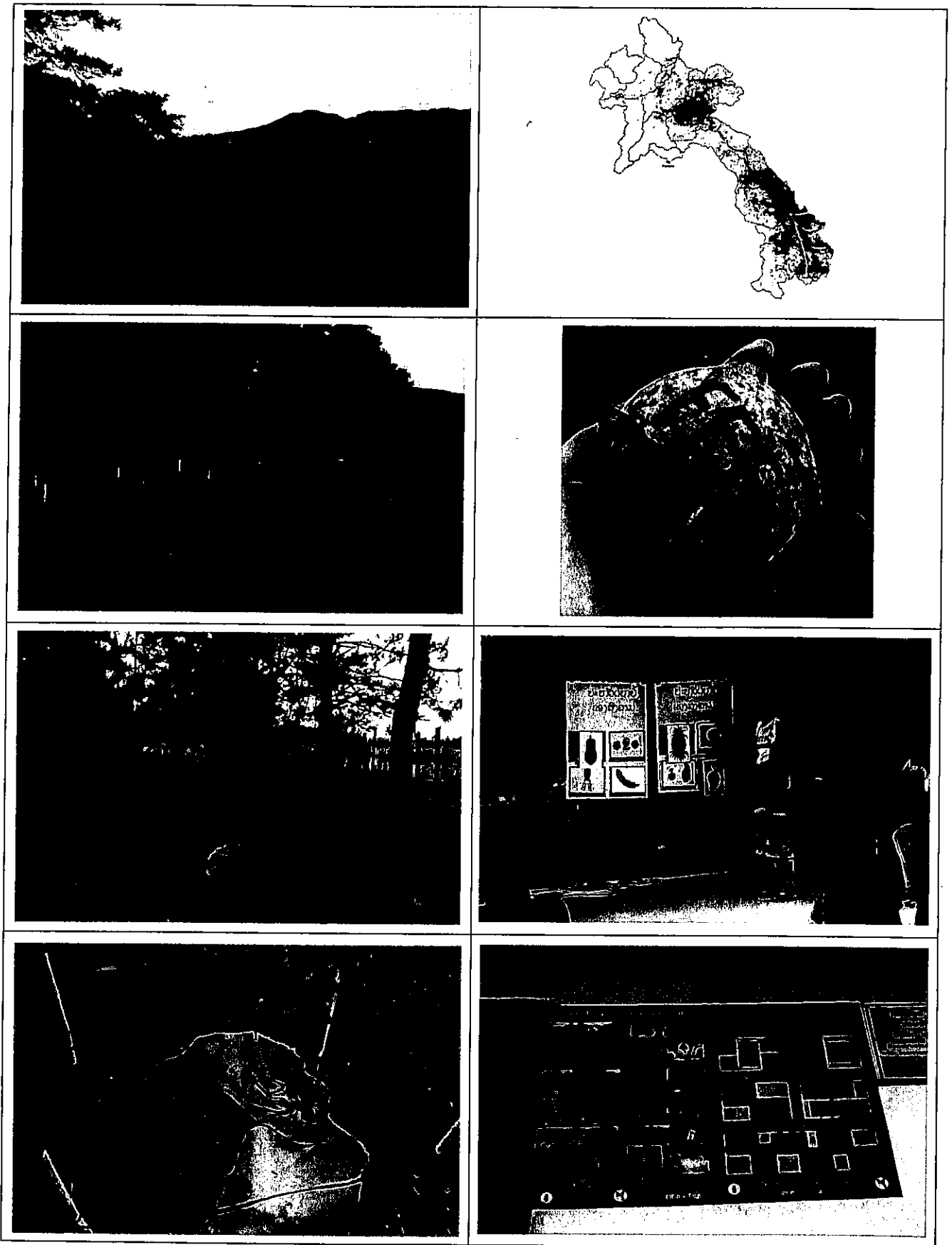
など

平和への方向性を自分も担っていきたいという強い気持ちを感じられた。社会教科での国際協力や貧困問題などにも興味を示し始めた。学級内でも友人たちに対する声かけや、支援が必要な生徒を助けるなど、自分にできる小さな一歩や声かけ、手助けを進んでしてくれるようになった。その行動にも言葉にも明るさが見られ、学級での協力・共生を大切にする様子がある。

【8】自己評価

(1) 苦勞した点	ラオスについて教師海外研修で学んだ情報以外を得ることが難しく、授業で伝える内容に深みを持たせることができなかった。そのため生徒からの様々な疑問・質問に対して明確に説明することができなかった。
(2) 改善点	ラオスについて伝えたい気持ちが出過ぎる場面が多々あり、生徒の考える時間を適切に取るができなかった。遠い国の出来事が生徒自身のこととして落とせるような場面設定と発問をさらに吟味したい。
(3) 成果が出た点	単元を決め、つながりのある授業を数時間計画して取り組んだことで、考える・議論する事を柱とした指導案を立てることができるようになった。ラオス国と沖縄、そして生徒を結びつける授業内容を展開したことで、生徒が身近なことから世界について考えるようになり、自分にできることは何か? など社会貢献や持続可能な社会を創る視点を意識し始めた。
(4) 備考	ラオスの子どもたちの教育の様子から、何か出来ることはないのか? の声が発自的に出てきた。タイミングよく、保護者の読み聞かせ時間に「マララさん」に関する女子教育や、クラスに訪れたミャンマー人からも、アジア教育事情に触れる機会を得て、ラオスの子どもたちに絵本を贈るという活動にまでもっていくことができたのには感動した。受験面接練習で、思い出の授業は、との質問に対して国際理解教育が印象的であったと話す姿に大変感動した。

添付資料：①（本時で写真1枚をA3サイズにしフォトランゲージで使用）



# あなたもピースメーカー

①自分で考える（書く）

【ラオスの現状を知って・・・】

おどろいた	おもしろい	かわいそう	くだらない
腹が立つ	わけがわからない	しかたがない	心配だ
自分には関係ない	わくわくする	興味がない	悲しい
こわい	くやしい	うれしい	（その他）

【なぜそう思ったのかな？】

③自分の思い（書く）（共有する）

【あなたが創る平和の約束は・・・】

②自分で考える（書く）（共有する）

【あなたが考えるピースメーカーってどんな人？】

【なぜそう考えたのかな？】

④今日の授業を通して気づいたこと



授業の一言感想





**宇良一成（うらかずなり）さん**

頭村出身

衛隊に入隊し、不発弾処理隊として

縄で勤務した。沖縄は不発弾が多い県であり、過去の自分が置かれた環境や知識をいかしたい、定年してもこの仕事に携わりたいと思い、東ティモール、中国そして現在はラオスで不発弾処理教育を行っている。※インタビューより

中学生へのメッセージ

「夢」を持って欲しい。それに向かって頑張っていて欲しい。

宇良さんは JMAS の専門家として地雷処理・地域復興支援・不発弾処理に取り組んでいる。この写真は「爆弾のこぎりカット方教育」の様子で、技術者やチームリーダーに指導を行っている。

” JMAS は、専門技術を有する自衛隊 OB が中心となり、技術指導を通じた地雷・不発弾処理や、地域復興支援プロジェクトを実施している NGO 団体です。

2002年「我々にしかできない仕事」との思いから活動を始め、現在は4か国で支援事業を行っています。「地雷・不発弾のない安全な世界」を目指し、「人々自らの発展」を支える国際貢献活動を続けています。”

※JMAS パンフレットより原文のまま引用



**ອົງການເກັບກຳລະເບີດເຈັມັດ ປະເທດຍີ່ປຸ່ນ  
Japan Mine Action Service**

ເຮືອນເລກທີ 70, ຫ່ວຍ 04, ບ້ານສະພານທອງໃຕ້, ເມືອງສີສັດຕະນາກ, ນະຄອນຫຼວງວຽງຈັນ, ສປປ ລາວ.  
04/070 Ban Saphanthog tai, Sisattanak district, P.O. Box 2681, Vientiane, Lao PDR  
Tel/Fax: (+856) 21-312283

ອົງການເກັບກຳລະເບີດເຈັມັດ ປະເທດຍີ່ປຸ່ນ ໄດ້ເລີ່ມໂຄງການໃນປະເທດລາວແຕ່ປີ 2006, ເປັນອົງການຊ່ວຍເຫຼືອຈາກປະເທດຍີ່ປຸ່ນໃນການເກັບກຳມິນ ແລະ ການເກັບກຳລະເບີດບໍ່ທັນແຕກ.

JMAS is one of the Japanese NGOs which conducts Mine / UXO (Unexploded Ordnance) clearance Projects. In Lao PDR, JMAS started activities in 2006.



ຊ່ວງຊານຂອງອົງການເກັບກຳລະເບີດເຈັມັດ ກຳລັງແນະນຳການຕັດລະເບີດຢູ່ພາກສະໜາມ.  
JMAS TA is instructing at the UXO clearance site

ອົງການເກັບກຳລະເບີດເຈັມັດ ປະເທດຍີ່ປຸ່ນ ແມ່ນໄດ້ຮັບການສະໜັບສະໜູນຈາກກະຊວງຕ່າງປະເທດຍີ່ປຸ່ນ ແລະ ປະຊາຊົນຍີ່ປຸ່ນ.

JMAS's projects are supported by Ministry of Foreign Affairs of Japan and Japanese people.

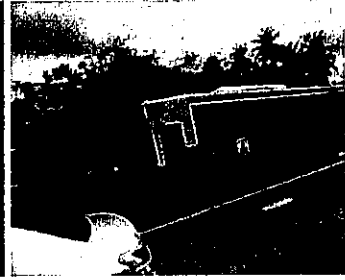
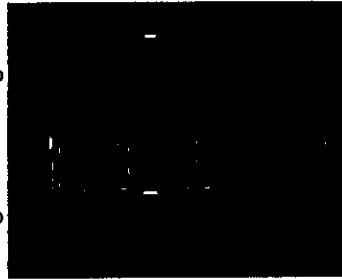


From the People of Japan

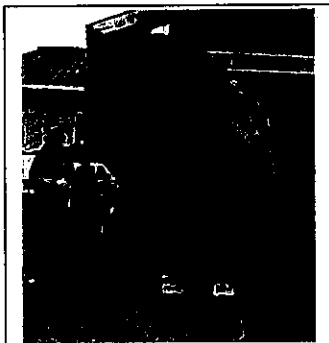
参考資料：

- ・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 文部科学省
- ・ 開発教育ってなあに？ 特定非営利活動法人 開発教育協会
- ・ 指導案・コンテンツ共有サイト TOSSランド新 [www.tos-land.net](http://www.tos-land.net)
- ・ 国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～ JICA 地球ひろば
- ・ 特定非営利活動法人 ラオスのこども [deknoylao.net/](http://deknoylao.net/)
- ・ 井上きみどりの日本とアジアの絆をたどる旅～ラオス・ベトナム編～ JICA
- ・ 子どもとできる創造的な対立解決 実践ガイド<増補版> DEAF開発教育協会
- ・ もっと話そう！平和を築くためにできること DEAF開発教育協会
- ・ 認定特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会<JMAS>

「ラオスはこれでいいのかなあ」と、ラオスの至るところで日本の支援を知り、「日本すごい！」と思いながらも、あまりの多さにふとってしまったことである。



【ラオスらしい開発とは何か】の視点を与えられ、教師海外研修を進めていくと、「人を育てる」というキーワードが青年海外協力隊員、その他の日本人の活動や日本企業の支援を通して垣間見ることができた。



<大村智子先生>

迷ったらやってみて。こういうチャンスは二度とない。目の前にあるチャンスを取りこぼさずにやっていく。

北部シェンクアン県カンカイ教員養成短期大学で数学教育に従事している青年海外協力隊の大村智子先生（沖縄県出身）や南部アタプー県共同体機能強化支援事業を進めているコープおきなわの本園真海さん（琉球大学出身）はラオラオ酒協同組合結成に向けて、ラオスの人たちによるラオスの人たちのための取り組みを支えていた。

「開発」＝発展＝近代化と、「開発」という言葉の意味合いを取り違えていたことに気づかされ、ラオスらしい開発に向かっての奮闘は誇らしく、必ず生徒たちに伝えたい内容となった。

知識と技能を伝え、更には物に頼れない日本人技術者たちの工夫、支援する側、される側それぞれの姿勢が、「共生」を産み出し、持続可能な社会に繋がることを「ラオスの未来を創る人たち」から学ぶことができた。

自分の人生。やりたいことをやるのがいい。そのためにやらなといけなことが多い。

<本園真海さん>

